見て見ぬふりをしないために

富山国際大学付属高等学校　２年　山崎　翼

私はこれまでの学校生活で、はっきりとしたいじめを目にしたことはない。しかしニュースや本、先生の話を通じて、いじめがどれほど人を傷つけるかを知ってきた。自分の学校で今は起きていなくても、どこででも起こりうるものだと思うと、身近な問題に感じる。だから私は、もし自分の周りでいじめがあったらどうするかを考えてきた。そして将来は小学校の先生になり、子供たちが安心して学べる場をつくりたいと思うようになった。

ニュースで知ったある小学生の話が心に残っている。ほんの小さなきっかけでクラスの一部の子に仲間外れにされ、学校にいけなくなったという内容だった。理由は、運動が苦手だったことや、おとなしい性格だったことだったという。私はそれを聞いて思った。自分のクラスで同じことがあったら、どう行動するだろうか。勇気を出して「一緒に遊ぼう」と声をかけたり、「やめよう」と伝えたりするだけでも、その子は少し救われたかもしれない。いじめは小さなことから始まるが、それを見て見ぬふりせず止めることが大切だと感じた。

いじめは学校だけの問題ではない。世界でも似たことが起きている。力の強い国を無視したり、自分の利益を優先して愛しい国に負担を押し付けたりすることがある。ニュースを通してそうした現実を知ると、大人の社会でもいじめのようなことが存在すると感じる。弱い立場の人を守らず、置き去りにする行為は、教室の中で起きるいじめと重なって思える。だから、いじめを考えることは世界をどうするかを考えることにもつながっている。

ＪＩＣＡの活動を調べたとき、私は希望を感じた。学校を建て、子どもたちに学ぶ場所を与える。水や食べ物を届ける。農業や医療を広める。そうして困っている人や国を支える姿を知ったとき、これはいじめを止めることだと同じだと思った。見て見ぬふりをせず困っている人にどうしたら手を差しのべられるかを考え、行動する。そうした姿勢が社会を良くする力になると気づいた。

私は将来、小学校の先生になりたい。その理由の一つは、子どもたちに「ここなら安心できる」と思える場をつくりたいからだ。もしクラスでいじめが起きそうになったら、すぐに気づいて止められる先生でありたい。ただ止めるだけでなく、子どもたちが「お互いを大切にしよう」と自然に思えるような雰囲気を育てたい。そのためには一人一人の小さな声や行動を大切にし、全員が居場所を感じられるクラスを築くことが必要だと思う。

いじめをなくすためにできることは、大きなことばかりではない。「一緒に遊ぼう」と声をかけること。困っている子に「大丈夫」と伝えること。人の悪口を言わないこと。そんな小さな積み重ねが、安心できる学校をつくる。世界も同じだ。国と国が無視せず助け合うことで平和を築くことができる。

今の私にできることはまだ小さいかもしれない。しかし、いじめを見たときに勇気を出して声をかけられる人でありたい。そして将来は先生として、子どもたちが笑顔で過ごせる学校をつくりたい。さらにその気持ちを広げ、世界でも困っている人を支える行動をしたい。

いじめは簡単にはなくならないかもしれない。それでも誰かが勇気を出して行動すれば必ず変わる。私はこれからも「見て見ぬふりをしない人」でありたい。そして世界中の子供たちが安心して笑える未来をつくるために、一歩ずつできることを続けていきたい。そのために、将来先生になったときには、子どもたち一人一人の声を大切にし、誰も孤独を感じない教室をつくりたいと思う。さらにその思いを広げ、国や世界でも人々が助け合える社会を築きたい。